

おぢや市議会 だより

NO. 117

令和 7. 7. 25

編集発行
小千谷市議会

☎ 83-3505

OJIYA CITY ASSEMBLY

議長室へ ようこそ

5月の第1回臨時会を経て、
新たな正副議長が就任。
議長・副議長ともに女性となる
のは小千谷市議会では初のこと。

市役所4階の議長室には、
客人を迎える絵画として
今後、月毎に市内作家の
作品を掲出する予定。

市議会の動き：

- 第1回臨時会 議長、副議長選出、各委員の選任
- 第2回定例会 条例改正、補正予算案など可決

第2回定例会のココに注目！

今年度の当初予算に加えて、さらなる予算計上を必要とする補正予算案（議案第48号）が上程され、慎重な審議の末に可決されました。

〈議案第48号 令和7年度小千谷市一般会計補正予算（第3号）〉

歳入歳出それぞれ2億2,043万8千円を追加し、歳入歳出予算の総額を257億4,743万8千円とするもの。

TOPIC #1 【7款 商工費】 ○商工業振興事業 604万円

中心市街地チャレンジショップ整備に係る補正予算

中心市街地の活性化と新たな事業者を増やす起業、創業支援を兼ねた施策として、空き店舗所有者の協力を得てチャレンジショップを整備、貸し出しするもの。本町商店街にチャレンジショップ1号店を整備。さらに2号店の整備を進めるもの。

（主な質疑）

- Q チャレンジショップ1号店の実情は。
- A 1号店は短期利用の相談あり。
- Q チャレンジショップの増設予定は。
- A 本町に限らず商店街の課題を調査し、可能性があれば増やしたい。
- Q 家賃や設置期間については。
- A まだ確定はしていないが、家賃は月1万円程度、期間を1年間と想定。ただし、利用状況や申込み状況により最大2年間と考えている。
- Q 1号店と2号店の違いは。
- A 1号店は既存店舗とスペースを共有して

おり、飲食等の利用は難しい場合がある。2号店は独立しているので、チャレンジショップの職種が広がると考えている。

- Q 出店者や利用者の駐車場確保については。
- A 原則は出店者が手配する。駐車場の整備計画はないが、近隣施設の駐車場等のスペース活用などの可能性は探っていく。

参考：チャレンジショップとは？

チャレンジショップとは、将来自分のお店を持ちたい、起業したいと考えている人たちが、本格的な開業の前に、低リスクで実際の店舗運営を体験・実践できる場所のことです。

TOPIC #2 【9款 消防費】 ○(仮称)防災センター整備事業 1億1,000万円

(仮称)小千谷市防災センターの整備に係る補正予算

元中子の防災公園内に令和8年供用開始予定の防災センターについて、資材費など物価高騰、人件費上昇に伴うインフレライド条項が工事費に適用され、6,400万円を追加するもの。また、冬場やイベント時の利用を想定した駐車場（カラー舗装）を拡張整備するもの。

（主な質疑）

- Q 駐車場を拡張する理由と当初の計画は。
- A 当初は消雪パイプを想定していたが、駐車場全てを補うことが困難となった。そのため、第二駐車場は機械除雪にて行うことになり、排雪スペースの確保から冬季の駐車台数が減少するため、新たに駐車場の拡張を考えている。
- Q 拡張する駐車場のアスファルトの種類や構造は。
- A 施設のデザインやコンセプトから、カラー

舗装を検討している。

- Q 機械除雪となると、カラー舗装は摩耗や劣化が激しい。慎重に検討すべきでは。
- A 関係各課で再度調査し、調査結果を報告する。※調査によりコンクリート舗装に変更。

参考：防災センターの新設にかかる総額は？

(仮称)小千谷市防災センター整備事業

令和6年度 10億2,120万円

令和7年度 16億4,180万円

合計 26億6,300万円

(予算書内の調書より)

議会構成等を決定しました

5月14日に開催の第1回臨時会において、正副議長を選出し、各委員会等の新しい構成を決定しました。(◎は委員長、○は副委員長)

▽議長

長谷川 有理

▽副議長

森本 恵理子

▽総務文教委員会

◎駒井 和彦

○高木 健太

佐藤 勝義

和田 忠篤

平澤 智

上村 行雄

長谷川 有理

田中 淳

▽民生産業委員会

◎住安 康一

○佐藤 瑞穂

廣井 良宣

阿部 守男

内山 博志

森本 恵理子

佐藤 隆一

久保田 陽一

▽議会運営委員会

◎阿部 守男

○内山 博志

廣井 良宣

高木 健太

平澤 智

住安 康一

駒井 和彦

▽新潟県後期高齢者医療広域連合議会議員

住安 康一

▽小千谷市監査委員

上村 行雄



第1回臨時会 議決結果 (5月14日開催)

議案番号等	議 件 名	議決状況	議決結果
条 例	議案第39号 専決処分（小千谷市税条例の一部を改正する条例）	全会一致	承認
	議案第40号 専決処分（小千谷市都市計画税条例の一部を改正する条例）	〃	〃
	議案第41号 専決処分（小千谷市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）	〃	〃
その他	議案第42号 損害賠償に係る和解及び損害賠償の額の決定	〃	原案可決
	議案第43号 小千谷市監査委員の選任	〃	同意

議長就任の挨拶

議長 長谷川 有理

5月に開催されました臨時市議会において、市議会議長に就任いたしました。

加速化する人口減少など、私たちが直面する課題は多岐にわたりますが、市民の皆様の声を真摯に受け止め、市長はじめ執行機関の皆様と健全な緊張感を持ち、創造的な解決策を見出すことで、市民の皆様と共にこの難局を乗り越え、より良い未来を築いていけると確信しております。

そのためにも傍聴席が多くの方の市民の皆様であふれるような活気ある議会に、女性や子ども、若者、高齢者、生きづらさを持つ方の声を身近に感じられる多様性のある議会になるよう、市議会一丸となって力を尽くすことをお誓いし、取組みを進めてまいります。今後とも市議会に對しまして温かいご理解とご支援を賜りますようお願いからお願い申し上げます。

副議長就任の挨拶

副議長 森本 恵理子

このたび副議長を拝命致しました。今期で継続して2度目の就任となり、あらためてその責任の重さを感じております。これまでの経験を活かしながら、丁寧な議会運営に努めてまいります。

今期は、全国的にも稀な議長・副議長ともに女性という体制となりました。多様な視点を持ち寄り、より良い市政の実現に向けて力を尽くす所存です。

現在、当市においても人口減少に関連するさまざまな課題が山積しており、議会の果たすべき役割はますます大きくなっています。今年度も秋に議会報告会および意見交換会を予定しておりますので多くの市民の皆様からご参加とご意見を賜れば幸いです。今後副議長として議長を補佐しつつ、当市の持続的な発展に寄与できるよう誠心誠意尽力してまいります。

第 2 回 定 例 会

議 決 結 果

(5月30日から6月23日まで開催)

議案番号等	議 件 名	議決状況	議決結果
条 例	議案第45号 小千谷市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例の制定	全会一致	原案可決
	議案第46号 小千谷市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定	〃	〃
	議案第47号 小千谷市税条例の一部を改正する条例の制定	〃	〃
予 算	議案第44号 専決処分（令和7年度小千谷市一般会計補正予算（第2号））	〃	承認
	議案第48号 令和7年度小千谷市一般会計補正予算（第3号）	〃	原案可決
その他	議案第49号 財産の取得（小形ロータリ除雪車）	〃	〃
	議案第50号 財産の取得（情報端末機器（PC））	〃	〃
	議案第51号 財産の取得（災害対応特殊救急自動車）	〃	〃
	議案第52号 財産の取得（市立学校学習者用iPad）	〃	〃
	議案第53号 人権擁護委員候補者の推薦（山崎均氏）	〃	同意
	議案第54号 契約の締結（川井大橋橋梁修繕工事）	〃	原案可決
	議案第55号 契約の締結（変更）（仮称）小千谷市防災センター新築（建築主体）工事	〃	〃

常任委員会報告

総務文教委員会

委員長 駒井 和彦

本委員会に付託されました議案4件につきまして慎重に審査した結果、全て原案のとおり可決すべきものと決しました。議案第48号は民生産業委員会との連合審査会としました。

○議案第45号 小千谷市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例の制定

質疑として 外国人の生活困窮者の受給者数及び居住実態など。

○議案第46号 小千谷市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定

質疑として 改正の背景、投票立会人の従事時間に応じた報酬額の算定など。

○議案第47号 小千谷市税条例の一部を改正する条例の制定

質疑として 特定親族特別控除における当市の税額への影響。

○議案第48号 令和7年度小千谷市一般会計補正予算（第3号）

質疑として 歳出の2款総務費、情報化推進事業において、ガバメントクラウド接続料の月額使用料及び今後の使用見込み、企画政策課経費において、企業連携型二地域居住実証事業委託業者に対する評価及び市の独自性を盛り込む考え方、3款民生費、放課後児童健全育成事業において、県の放課後児童クラブ等支援交付金に伴う事業の拡充、生活保護経費において、電算システム改修委託料に係る改修項目など。



議員永年表彰者

■10年表彰（全国市議会議長会及び北信越市議会議長会）

内山 博志

上村 行雄

駒井 和彦

森本 恵理子

佐藤 瑞穂 議員



小千谷市こども計画について

質問 こども若者調査の概況は。

答弁 こども若者の支援策を検討する基礎資料として18歳～39歳までの市民1000人に実施。25歳以上で就業経験がない方、引きこもりに該当する方が少数いた。一方、幸福度や自己肯定感、孤独感に関しては、年代が高くなるにつれて否定的な割合が増加する傾向。

質問 30歳～35歳までの年代の自己有用感の低さの要因と対策は。

答弁 自己有用感とは他者や集団との関係で、自分を価値あるものとして受け止め、他者に必要とされている感覚。調査結果では、自己有用感と関係する生活の充実度や幸福度、自己肯定感も同様に低い傾向。孤独感や健康状態が良くない、将来に対する不安があると答えた割合は高い傾向。今後、自己有用感を高めるための方策を検討する。

質問 こどもが意見表明する機会

の確保はどのように行うか。

答弁 こどもが意見を表明する機会を確保することがこどもの権利であると、より多くの大人から理解していただくことが大切だが、当市はその周知が十分ではなかったため、こどもの権利に関する情報の広報や啓発の効果的な手法を速やかに検討したい。

若者の孤独・孤立対策について

質問 若者の孤独・孤立対策の必要性はどのように評価しているか。

答弁 令和5年のこども若者調査で、孤独を感じることが「ない・ほとんどない」と答えた人は43%と半数を下回ったことから、多くの人が孤独や孤立を自認する状況。また、常に孤独を感じている人は4・7%で、年代が上がるごとに割合が増加し、若者の孤独・孤立が深刻化していることの現れと考える。孤独・孤立の長期化は就労意欲の低下など仕事や経済にも影響し、社会全体の大きな損失につながる深刻な社会問題へ発展していく可能性がある。当事者や関係者だけの問題ではなく、社会全体の共通認識や相談支援の充実が求められていると受け止めている。

森本 恵理子 議員



自治体ブランディングについて

質問 当市は多分野で意欲的な施策を展開していますが、市内外に

その魅力が十分に伝わっていません。これは広報の問題にとどまらず、自治体ブランディングの課題でもあります。ブランド構築の進捗と今後の方針を伺います。

答弁 インナーブランディングとして「みんなの一步で未来づくり大作戦」を行っています。

質問 もっと市民に刺さるような言葉、小千谷に住んでいることを誇りに思えるようなキーワードが必要なのではないでしょうか。

答弁 まずはインナーブランディングが大事だと考えています。

情報発信の再構築について
質問 発信力強化と利用者の使いやすさを重視し、ホームページをリニューアルしては。

答弁 研究と改善に努めます。

質問 SNSアカウントが複数あ

り情報の把握が困難です。集約した公式アカウントを設けては。

答弁 検討を進めてまいります。

質問 市内のどこでどんなイベントが行われているかわかりにくいので、ホントカにイベント情報掲示板を設置しては。

答弁 検討していきます。

船岡公園の活性化について

質問 人が多く訪れる山麓に明るく清潔な洋式トイレと手洗い場の設置が必要と考えますが見解は。

答弁 生産年齢人口が激減している中、選択と集中が必要です。現在、利用率が高い山頂トイレの洋式化、多目的トイレへの改修を検討したいと考えています。

質問 公園全体の価値を再評価し、文化・歴史資源を活かした整備のありかたについて伺います。

答弁 文化財保存活用地域計画への記載を検討していくとともに有効な活用策を検討していきます。

質問 船岡公園再活性化についてどのように考えていますか。

答弁 市街地に近接しており、景観に加え、歴史的文化的価値を有する資源もあるため、市外からの誘客促進も検討していきます。

市政の内容を聞く

一般質問

市政の内容を聞く

一般質問

佐藤 隆一 議員



ゴミ処理事業の転換へ (リサイクル広場を市街地へ)

質問 リサイクル広場を市街地へ移転し、可視化することが必要ではないですか。

答弁 全面移設する考えはありませんが、市内事業者との連携の中で、市街地で実施するなど関心を高める工夫は大切と考えます。

質問 市民総参加でゴミゼロ運動に取り組むことが重要です。

答弁 一般廃棄物処理計画の中で検討したいと思います。

質問 政府は、リチウム蓄電池などのリサイクルを自治体に任せる方針とのことですが、どのような話が来ているのでしょうか。

答弁 国は法律に基づいて処理を進める方針を示しています。リチウム電池はたいへん扱いが難しく、大原でも年間100件の火花・発煙などが近年発生しています。

質問 有価物の売却収入の現状は。

答弁 令和2年920万、令和6年2640万で、その後も同水準で推移しています。今後の予測は難しいです。

柏崎刈羽原発の再稼働について

質問 原発の再稼働については安心・安全が大前提です。しかし、安心と安全は全くの別物です。安全は国や規制庁、事業者がもつぱら責任を持つものです。しかし、安心は市民と国や事業者との信頼関係から作られます。国や規制庁、事業者は職責を十分に果たしているとお考えですか。

答弁 職責を果たしているかについては、疑問を招いている。市民が安心感を持っているとは言えない。小千谷市には雪国が持つ特殊事情という課題があり、その課題を最優先事項として取り組んでいます。



分別でごみを資源に

住安 康一 議員



機能別消防団について

質問 当市においての特別消防団員制度はごく一部の活動形態であり、団員も基本的には消防団経験者の方のみで、一般の方や主婦を含めた女性、防災士の方や後方支援のできる方など、市民の力をもっともつと活用し、機能別消防団員制度の構築・充実をはかるべき。

答弁 特別消防団員の職務については、消防団整備計画において災害対応業務以外の幅広い活動を明記しており、今後、消防団員の経験を活かして多様な業務に従事していただくことも可能であると考ええる。特別な技能を活かした活動についても、議員ご提案の内容や全国各地の事例を参考に令和8年度に施行する「第五次小千谷市消防団整備計画」の中で検討する。

带状疱疹ワクチン接種の補助の拡充について

質問 接種費用が高齢者にとってみると高額だ。市の補助を増額し、魚沼市のようなレベル、生ワクチン接種で3千円以下、組換えワクチン接種で1万円以下まで下げる検討をするべき。また、带状疱疹は50歳以上から罹患率が徐々に高くなる。50歳から64歳までの方の接種費用の助成をすべき。

答弁 带状疱疹ワクチンが定期接種化された経緯を踏まえ、現段階では、補助額を県内統一単価による額とし、対象年齢は国の判断に沿って65歳以上として進める。

物価高騰対策、関税対策について

質問 暮らしへの支援について、物価高騰対策、関税対策をどのように進めるのか。また、企業や事業所に対しての対策をどのように進めるのか。

答弁 国の推奨事業メニューとして示されている生活者支援や事業者支援の具体例を参考にしながら、今後、地域の実情に応じた、きめ細やかな支援策を検討することとしている。交付金の有効活用に加え、必要に応じて交付金以外の財源の活用も考慮しながら、物価高騰対策や関税対策に取り組む。

内山 博志 議員



全ての農家が希望の持てる 農機具購入補助について

質問 米価高騰は、供給量不足のためだ。国の減反政策と食料問題を市場任せにした結果だ。価格保障、所得保障が必要だ。国は大規模化を進め、小規模農家を軽視し、小千谷市の販売農家戸数は20年間で1127戸、51%に半減している。各種補助施策があってもこの状況だ。当市の耕作放棄地の面積は。大規模農家と小規模農家の役割と今後のあり方は。農機具が壊れたら農業を辞めるという声を多く聞く。南魚沼市は、農機具更新の補助金を農家の要望に応え当初予算に9千万追加し、1億1千万円とした。農業を守るため補助金制度を検討すべきではないか。

答弁 耕作放棄地（遊休農地）は平成30年度3haから令和6年度が11・3ha（約7年で4倍近い）に増加している。大規模農家は、効

率的な体制で競争力を高め、小規模農家は、地域で多様な作物を栽培し、地域密着で中山間地の活性化にも貢献している。規模に関わらず補完し合うことが重要。農機具更新の補助制度は、次世代への継承促進等に有効。他の先行事例を参考に研究を進める。

柏崎刈羽原発再稼働の是非 についての市の判断は

質問 知事は、事故時の被ばくシミュレーション等の結果を有効と述べた。知事に意見を述べる際に市民の声をどう集約し判断するか。避難計画を市民が納得できないまま再稼働すべきではない。知事選前に認め、その後に知事選を行うという考え方についての所感は。

答弁 最悪を想定し、理解を求めることが必要。県民意識調査にUPZ内の特殊事情を集約できるようリーダースhipを発揮する。避難の実効性など再稼働議論の前に課題が多い。仮説に所感を述べる立場にはないが、知事が県民意識調査や首長との意見交換会など議論を深め、県民の受け止めを見極めるとしていることを注視する。

廣井 良宣 議員



Jークレジットについて

質問 温室効果ガスの排出削減・吸収量をJークレジットとして認証する制度がある。小千谷市エネルギービジョンでは風力発電や中小水力発電など様々なエネルギー種別が検討され、再生可能エネルギーのポテンシャルとして太陽光発電、地中熱利用、雪冷熱利用の可能性が高いとの総合評価となった。地域のエネルギーを地域で活かすという基本方針を踏まえ、再エネ導入を目指すのであれば、行政自身もJークレジットの創出に向けた取り組みを推進するべきではないか。

答弁 カーボンニュートラル実現のためには、令和5年5月に策定した小千谷市地球温暖化対策実行計画において基本方針としている省エネの推進、再エネの導入拡大、地域資源の有効活用が3本柱を並行して進めていくことが重要。J

ークレジット制度の理解促進に取り組み、行政としても自ら創出に取り組む必要がある。現在、国の制度や近隣自治体の情報を収集している。県内では2ヶ所で事例があり、研究し取り組みたい。

有機フッ素化合物(PFAS) への対応について

質問 PFASが人体に及ぼす影響について国内の評価や対応はまだ十分とは言えない状況であるが、2026年4月から水道法上の水質基準となり、定期的な水質検査が義務付けとなる。当市としての対応やPFASが基準値を超えた場合に求められる改善策は。

答弁 国の法改正により、PFASのうちPFOS及びPFOAの当市での検査回数は概ね3ヶ月に1回以上となる予定。検査機関に委託する費用は現在の4倍の80万円以上となる見込み。委託のため職員の人的負担はない。これまで県内で暫定目標値を超えて検出された事例はないが、市内4ヶ所の浄水場のうち信濃川から取水する小千谷浄水場は検出可能性がある。万が一の場合は粉末活性炭の投入により除去を考えている。

市政の内容を聞く

一般質問

市政の内容を聞く

一般質問

駒井 和彦 議員



当市が展開する施策の現状と課題・今後について

質問 みんなの一步で未来づくり大作戦の現状、手応え、今後市民等に求めるもの、新たな展開等は。

答弁 自分事として参加し、無理のない範囲のワンアクションを踏み出して貰いたい。今後は一例として、地域医療、空き家有効利用を、皆さんと共に考えていきたい。

質問 ①女性幹部職員登用、②多様性を尊重した人事や職場づくりの具体的取組について。

答弁 ①女性職員の管理職への登用は、着実に進める事ができている。②障がい者雇用の拡大、それに付随して職員が多様な価値観を学ぶ場の創出、障がいのある職員の特性を、市の施策や職場環境の改善に活かされるよう取り組む。

質問 職員へのカスタマーハラスメントの現状と対応策について。

答弁 今後対応策を検討する必要

があると考え、情報収集している。
柏崎刈羽原発再稼働について
質問 県民条例案に付した知事の意見について。

答弁 私が意見を述べる立場にないが、事故のリスクは再稼働に関係なく存在するため、現状、避難の実効性確保、UPZの不合理性等々、事前の整理課題が多い。

質問 ①市民の意向をどう取りまとめるのか。②UPZ圏内市・町の意向を優先すべきについて。

答弁 ①県が実施予定の原発再稼働に関する県民意識調査は大切な情報になり得る。地域の課題等を的確に把握できるよう要望したい。

質問 ②知事の考えを尊重したい。

質問 知事が直接国に出向いて要望した特措法見直しについて、事前に承知していたのか。いなかったのであれば再稼働に前のめりの何ものでもないと考えるが、この要望を許容するのか。

答弁 要望の日程については承知していない。以前より現行特措法の不合理な現状を強く訴えてきた経緯もあり、今回の要望は、当市の訴えを真摯に受け止めて頂いた内容と理解している。

平澤 智 議員



おぢやっ子教育プランにおけるふるさと教育推進について

質問 中学校部活動地域移行が進められてきているが、部活動の観点からみたふるさと教育の実践について。

教育長答弁 部活動の地域移行が目前に迫っている昨今、部活動で行っていた吹奏楽だけでなく、地域に伝わる様々な伝統文化に触れ、体験することもふるさと教育の実践に合致するものと考えている。

質問 伝統文化については、ふるさと教育の一環として地域と学校が一体となつて継承してゆくことはとても有意義であると考えている。どんなかたちで進んでいるのか。

教育長答弁 地域の伝統文化の次世代への継承は重要な課題として捉えている。学校教育と連携しながら力を入れて取り組み、成果を上げている事例としては、片貝小学校では、片貝伝統芸能保存会が

5年生に「木遣り」の指導に取り組んでいるほか、6年生の有志に「巫女爺」を教えている。その取組が定着し、次世代の継承に繋がっている。東山小学校では、「牛太郎」を育て、牛の角突きに誇りと愛着をもって参加している。

質問 将来的なUITターンに向けた地域愛の醸成という観点からも有効であると考えているが。

教育長答弁 おぢやしごと未来塾において市内の産業を学んだり、職場体験活動を通して地域に根差したキャリア教育を進めたりすることは、将来のUITターンにも繋がるものと考えている。ふるさと教育、キャリア教育の充実・推進を通して、おぢやっ子教育プランに掲げる「ふるさとゆめづくり」に邁進してゆく。

質問 地域や家庭内においても積極的なふるさと教育をすべきと考えるが。

教育長答弁 地域の協力等が不可欠。それぞれの地域に歴史、文化、自然、人材など多くの特色があり、宝があり、伝えていくことは学校教育のみならず、社会教育や生涯学習の面からも大切な取組である。

和田 忠篤 議員



公共交通の課題及びAIオンデマンド交通（人口知能AIを活用した予約制乗り合いタクシー）について

質問 公共交通の一層の利用促進を図る施策について伺う。

答弁 公共交通の利用促進施策としては、主に高齢者等の移動に支援が必要な方を対象とする交通空白地域における公共交通の充実が挙げられます。その実現に向け、本年10月からAIオンデマンド交通の運行を予定しています。

質問 AIオンデマンド交通の運行開始に向けて、どのように市民への周知等を行っていくのか伺う。

答弁 AIオンデマンド交通の利用促進を図るうえで市民の皆様に分かりやすくお知らせすることが重要です。そのため、運行概要や予約方法等を記載した当市独自のパンフレットを作成し、8月中旬に市内全世帯に配布する予定です。

また、運行区域内の各町内単位などで利用説明会を開催するなど、きめ細やかな周知を行います。

小千谷市立小中学校の在り方検討委員会について

質問 現在までの進捗状況や検討委員会で協議された主な内容について伺う。

教育長答弁 本年2月に第1回検討委員会を開催して以降、毎月1回のペースで委員会を開催しています。主な内容としては、小中学校の現状と課題、学校教育に求めることや学校が果たす役割を議論いただきながら、小中学校の適正な規模について検討いただきました。

質問 検討委員会の答申提出後の進め方について伺う。

教育長答弁 小中学校の適正配置については、今後、検討委員会の答申を踏まえて、当教育委員会が中心となって各地域に向き、保護者や地域住民のニーズや意見等をお聞きする懇談会を開催する予定です。こうしていただいたニーズやご意見などを基に、令和8年度末を目標に、今後の学校及び保育園の適正配置計画を策定したいと考えています。

高木 健太 議員



市民の家・信濃川水力発電館をアウトドア施設へ転換する方針について

質問 施設の基本目的とターゲットの整理について。

答弁 今回の調査や協定締結は施設の設置目的や利用形態を根本的に変えるものではない。市民利用を維持しつつ、キャンプ区画等の特長を活かし、民間ノウハウの活用で市外利用も促進し、結果として地域交流や活性化に寄与するものと考えており、目的やターゲットは従来通り。

質問 調査結果の受け止めと方向転換の根拠について。

答弁 調査ではキャンプサイトの高付加価値化等の提案を受け、既存施設を有効活用する方向としました。提案や課題は今後の参考とし、持続可能性等を多角的に検討していく。

質問 コスト削減等について。

答弁 現時点で指定管理者制度等の具体的な検討は未実施。直営運営で年間1千3百万円の支出超過が続いている。区画整備や広報強化に努めたが改善に至らず。今後も利用促進策について研究する。

質問 市民・利用者の声の収集・事業計画への反映について。

答弁 今回の協定や調査に際しては市民・利用者の意見収集は行っていない。今後、必要に応じて意見聴取の機会を設ける。

質問 新潟県アウトドア協会への期待と役割について。

答弁 同協会は、県内のアウトドア関連事業者のネットワークを活かしてアウトドア文化の発展に貢献するとともに、自治体の課題解決なども目的として設立された。新潟県や三条市と包括連携協定を締結している実績も加味し、アウトドアを基軸とした施設の魅力向上の検討にあたり、適任であると判断した。今後、市民の家と信濃川水力発電館の利用促進に向けて専門的な視点からアドバイスをいただくと、計画の実行段階においても専門的な知見を活かして協力いただくことを期待している。

市政の内容を聞く

一般質問

総務文教委員協議会を 開催しました

令和7年6月16日（月）

○小千谷市中学校部活動地域移行の現状の取り組みと今後の方針について（教育長、文化スポーツ課）

令和7年度8月以降の休日の部活動地域移行について、地域移行実施種目及び認定団体の状況について、教員の兼職兼業についてなど。

（意見）

・近隣市町村の事例を参考に、保護者や生徒へわかりやすい情報提供を行ってもらいたい。

・休日の部活動への参加人数の把握や各種目の中体連への参加条件など情報収集と情報公開を行ってもらいたい。

○小千谷市立小中学校の在り方検討委員会での協議内容と今後の方針について（教育長、教育・保育課）

委員会設置の背景、これまでの経過及び協議内容について、今後の方針についてなど。

（意見）

・児童、生徒数の今後の推移やコストだけでなく、児童、生徒にとって未来ある学校の在り方をしっかり議論して欲しい。

・当事者である児童、生徒、保護者、地域の意見もしっかり聞いてもらいたい。

本会議をインターネット中継しています

議会ホームページからインターネットライブ中継でご覧いただけます。

本会議当日のライブ中継のほか、本会議終了後概ね1週間後には、録画映像も配信しています。

市政への一般質問で各議員の顔写真の下に二次元コードを掲載しています。

スマートフォンやタブレット端末で読み取ると、各議員の一般質問の録画中継をご覧いただけます。

また、会議録も市議会ホームページで閲覧できます。（令和7年第2回定例会の会議録掲載は、8月末頃となります。）

URL <https://www.city.ojiya.niigata.jp/site/gikai/>

小千谷市議会

検索

市議会を傍聴してみませんか

第3回定例会開催予定

8月29日（金） 第1日 議案上程説明

9月1日（月）

～9月4日（木） 各常任委員会で審査

9月18日（木） 第2日 一般質問

9月19日（金） 予備日 一般質問
（質問者が多い場合に開催）

9月24日（水） 最終日 委員長報告、採決

※日程は変更される場合があります。各委員会の日程、団体での議会傍聴については議会事務局（Tel.83-3505）へお問い合わせください。

委員会の傍聴については、あらかじめ議会事務局へお申し出ください。

市議会だよりをアプリで配信中



マチを好きになるアプリ

スマートフォンやタブレット端末で使える無料アプリ「マチイロ」で配信中です。ぜひご利用ください。



Android用



iPhone用

編集後記

沢から流れ伝う近所の川に、近年は毎年のように蜚が数匹、明滅する光をまとう姿を見せるようになりました。三面を護岸コンクリートに覆われた現代の川にも関わらず、浚渫の頻度が落ちて野生化しつつある中洲がかえって自然の営みを回復するのでしょうか。何事も手を入れ過ぎない、ということも、生き生きとした空気や土壌を生み出す要諦であるように感じます。

市議会の第2回定例会は、蜚舞う6月の梅雨時季とともに過ぎました。それに先立つ5月の臨時会を経て、初の女性の正副議長を選出した小千谷市議会。各委員会の顔ぶれも改まり、私たち広聴広報委員会も新たになりました。

先号巻末の編集後記に「変わらぬご愛読をよろしく」とお伝えしたばかりの私でしたが、間髪入れずに「ただいま」とまたこの場所に舞い戻って参りました。今度は編集委員長の任をお預かりしました。これからも、皆様に愛され、大切な情報共有の紙面となるよう委員一同力を合わせて参ります。

編集委員長 佐藤 瑞穂